

2年目インタープリターから見た、那須平成の森の冬の魅力!

去年は3人、今年は1人の合わせて4人が新しく仲間に加わりました。今回は、昨年入った3人に「冬の森の魅力」について聞いてみました。さて、どんな感想が返ってきたのでしょうか。早速見てみましょう!



たんたん(丹野)

冬の森はモノトーンなイメージですが、それ故、白と黒のグラデーションを感じ取ることができます。雪や氷が照り返すきらきらとした輝きも、木々が雪上に映し出す様々な影のアートも、心を掴んで離しません。冬、大好きです。



カリー(小鷹)

お客様をガイド中に感じたことなのですが、雪の森では、静寂を楽しむ時間もあれば、そり滑りで子どもも大人も大笑い!みたいな時間もあります。静と動の時間を共有することで、雪がないシーズンのガイドでは垣間見えないその人らしさのようなものが見えるのがとても魅力的でした。



ともみん(植村)

なんといっても雪の多さ!そして高くなる目線!那須平成の森に来るまで活動していた地域は、こんなに雪はありませんでした。雪のない時期には遠く頭上にある木の枝先やキツツキの穴が近くで見れるという視界の変化が、冬の森の魅力のひとつです。

インタープリターが独自の視点で語る...

インタープリターの部屋 Part.8 ~ガッキー編~

私の「自然観察のポイント」を紹介!



視点が小さくなると
小人になった気分です!



自然を観察する時に、私は気を付けていることがあります。それは「視点を小さくする」ということ。特に雪が降り積もる冬は、葉も花も無く、何となく寂しい雰囲気が漂います。しかし、この「視点を小さく」を意識するだけで、様々な発見があるのです!

例えば、枝の先についた冬芽をルーペを使って観察してみると、それぞれ形や大きさ、色、芽鱗(冬芽を覆う鱗)の枚数など樹種によって違うことが分かったり、鱗で覆うことで冬の寒さを乗り切ろうとしている生きる知恵が垣間見れます。

他の季節でも、小さな視点を持つことで見えていなかったものが見えてくるのが、何よりの楽しみなのです。(西垣)

「那須平成の森 花札」

皆さんは「花札」で遊んだことがありますか? 「花札」は「花かるた」とも呼ばれる日本特有の「かるた」の一種です。安土桃山時代に、ポルトガルなどから伝わったとされるカードゲームが原型で、江戸時代になると賭け事に使われ始めます。賭博というイメージがありますが、絵柄自体はとても美しいものです。一組48枚に、12か月の折々の花が4枚ずつ書き込まれています。

今回「那須平成の森」通信では、一年をかけて、那須平成の森版の「花札」を創ることとしました。本歌の花札に倣って「那須平成の森」ならではの季節の花々とそれに見合う「役」を創ります。今回は、「春」ですので、4月、5月、6月の「花札」を紹介しましょう。本歌の4月~6月は、「フジ」「カキツバタ」「ボタン」です。那須平成の森版は、「カタクリ」「シロヤシオ」「サラサドウダン」としました。次号では、7月、8月、9月の花札を紹介します。お楽しみに。

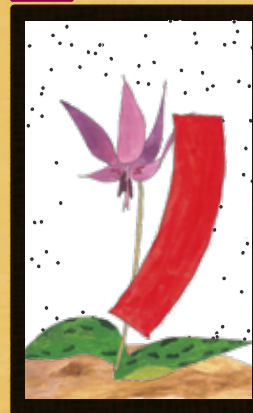
4月 カタクリ

10点



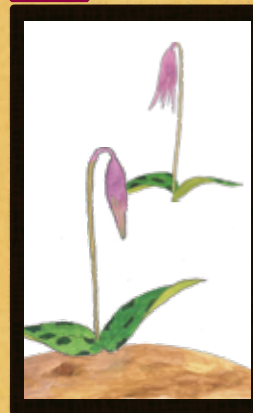
本歌の「菊に盃(9月)」をいただいて、スプリング・エフェメラル「カタクリ」で森カフェのおいしいコーヒーはいかがでしょう。

5点



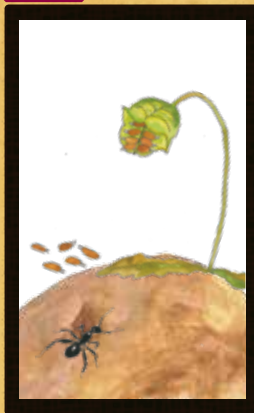
赤い短冊をそえて5点の役札です。

カス札



充分な太陽の光を受けるまでつぼみの状態で。

カス札



カス札は、カタクリの成長が分かるデザインに、重要な役割を担う「アリ」の登場です。

5月 シロヤシオ

20点



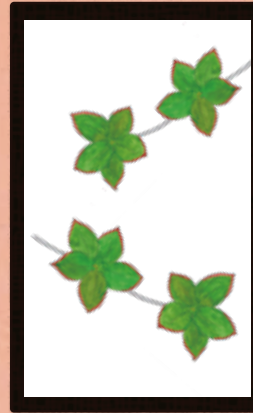
シロヤシオは那須を象徴するツツジのひとつ。夏鳥のオオルリが春の歌をうたいます。

5点



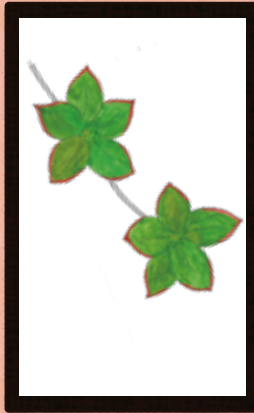
本歌は桜が美しい美吉野の赤短ですが、こちらは美しい那須から「美那須野」としました。

カス札



葉が5枚なのでゴヨウツツジ(五葉ツツジ)ともいいます。

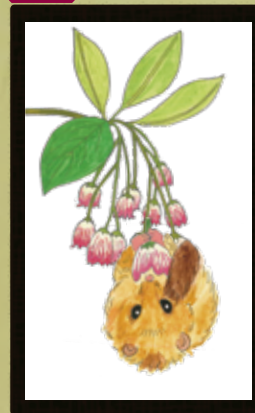
カス札



葉の先端には赤い縁取りがあります。

6月 サラサドウダン

10点



冬眠から覚めたばかりのニホンヤマネは、サラサドウダンの甘い蜜が大好きです。

5点



青い短冊を添えて5点の役札。

カス札



6月初旬から一斉に咲き始めるサラサドウダン、紅色の濃い紅サラサドウダンもあります。

カス札



花が終わると上向きになる果実が特徴です。